

信州出身大関「御嶽海」誕生！

上原 昇（2組）

大相撲1月場所で御嶽海が優勝して、その後、大関昇進が決まった。

新聞では、長野県出身力士としては雷電以来の227年ぶりと報じている。

200年以上前となると江戸時代のことで、大相撲も今と比較するのはどうかとも思うのだが、その雷電が右工門は1767年（明和4年）小県郡大石村（現東御市）生まれで、大相撲史上最強といわれている力士だ。生涯成績が、254勝10敗（勝率.962）というから驚きである。

東御市では、御嶽海と雷電を話題にした地ビール「オラホビール」が好評という。

さて、新大関の御嶽海（本名：大道久司）は1992年、木曽郡上松町出身で木曽青峰高校（旧木曽山林高校）から東洋大に進み。アマチュア横綱はじめ15冠の実績を引っ提げて出羽海部屋に入門、2015年3月場所が初土俵である。大関候補と期待されながら何度も期待を裏切り、7年かけて29歳にして、ようやく念願が叶ったという次第である。

実は、筆者は3年前の2月、あるパーティで御嶽海を近くに見ている。

本HPでも報告（2019年2月11日）したが、東京同窓連連合会という長野県の高校の関東地区同窓会の新年会に御嶽海がゲストで呼ばれてきた。

その場で聞いた面白い話を披露したい。

当日は、NHKのスポーツ（特に大相撲実況）アナで有名な刈屋富士雄さんが御嶽海の引き立て役として登壇し、御嶽海と軽い感じのトークを行った。

刈屋さんが、御嶽海の有名な稽古嫌いについてこんなことを言っていた。

「学生相撲は、大会に合わせて稽古（トレーニング）してピークを作ればよく、プロは場所中も含め毎日が稽古、稽古だ。関取（御嶽海）はまだ学生気分（アマ気質）が抜けきっていないのでは」。

続いて、刈屋さんから御嶽海が大相撲に入門した動機のひとつとして明かされたのが、「2年先輩で日大OBの遠藤（石川県出身、31歳、最高位小結）が、あれだけ活躍出来るのだから、自分（御嶽海）はもっと出来るはず」と言っていたという話。

これに対して、ご本人はまんざら嘘ではないというような表情で苦笑いをしていたのを思い出す。

今後の精進次第では、信州初の横綱誕生（雷電の時代は横綱と言う称号はなかったらしい）も夢ではなさそうだ。

我々の世代は、昔からの大相撲ファンが多いかと思う。

今から一か月後の3月大阪場所（3月13日初日）が楽しみである。

（2022年2月14日記）



大関昇進の口上を述べる御嶽海

以上



御嶽海が故郷から贈られた化粧まわし（撮影・尾崎 有希）